



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月5日

上場会社名 富士興産株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5009 URL http://www.fkoil.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金丸 勇一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 戸上 岩男 TEL 03 (3861) 4601  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	64,829	11.0	403	△7.9	497	△2.7	849	22.2
24年3月期第3四半期	58,409	8.4	437	7.1	510	13.1	694	44.9

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 904百万円 (33.3%) 24年3月期第3四半期 678百万円 (57.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	97.17	—
24年3月期第3四半期	79.52	—

※平成24年10月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	23,301	7,469	32.1
24年3月期	22,089	6,564	29.7

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 7,469百万円 24年3月期 6,564百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	13.1	800	△12.9	850	△15.2	1,090	△15.0	124.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※詳細につきましては、本日（平成25年2月5日）公表いたしました「繰延税金資産の計上及び平成25年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期3Q	8,743,907株	24年3月期	8,743,907株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	4,768株	24年3月期	4,490株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期3Q	8,739,346株	24年3月期3Q	8,739,582株

※平成24年10月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数および期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成24年10月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(6) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国経済は、欧州の債務問題や米国経済回復の鈍化などによる世界経済の低迷に、日中関係の悪化による輸出の落ち込みなど我が国固有の問題も重なり、春先をピークに夏場以降減速傾向で推移しました。

石油業界におきましては、原油価格は通関C I F 価格で期初120ドル/バーレル台後半から低下傾向で推移し100ドル/バーレル台前半まで下落したものの、秋口以降は上昇に転じ、110ドル/バーレル台での動きとなりました。

国内の石油製品需要につきましては、冬場の気温低下による増加はあったものの、復興需要広がり遅れなどの影響が大きく、全体では原発問題のために大幅に増加した電力用C重油を除き、ほぼ全ての油種において震災の影響で落ち込んだ前年同期と同水準に留まりました。また、製品販売価格も国内市況の軟化から弱含みで推移しました。

このような経営環境の下で当社グループは、当期スタートした中期経営計画の基本方針を柱として、各事業ごとに掲げた事業別施策を推し進めました。コア事業である石油事業では、震災からの復興需要に対応した東北地域における販売体制の強化を図るとともに、既存顧客への拡販と新規需要家の獲得に傾注し、販売数量では全国需要を上回る実績を上げることができました。反面、円安などの影響により上昇した原油コストの製品販売価格への転嫁に努めたものの、国内市況の軟化から苦戦を強いられました。

また、当社グループは財務環境の整備にも着手し、未処理損失の完全解消を実現するなど、経営基盤の強化に取り組むとともに、一方で、将来を見据え、新規事業として太陽光発電事業への参入を決めるなど、事業領域の拡大にも踏み出しました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高は石油事業の販売数量増などの影響により前年同期比64億円(11.0%)増加の648億円となり、売上総利益はコスト上昇分の転嫁の遅れはあったものの、前年同期比40百万円増加の2,927百万円を計上しました。しかしながら、営業利益は石油事業及びホームエネルギー事業の販売関連費用が増加したこと、前年同期比34百万円減少の403百万円に留まり、経常利益は前年同期並みの497百万円となりました。税金等調整前四半期純利益は、前年同期に特別損益として受取保険金など210百万円の利益を計上していることから、前年同期比194百万円減少の527百万円となりましたが、四半期純利益は当期において繰延税金資産を375百万円計上したこと、前年同期比154百万円増加の849百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①当第3四半期連結会計期間末の財政状態

当第3四半期末の総資産は、前会計年度末に比べ1,212百万円増加の23,301百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金の増加543百万円と繰延税金資産(流動資産「その他」及び固定資産「投資その他の資産」を含む)の増加375百万円によるものであります。

また、負債合計は、前会計年度末に比べ307百万円増加の15,831百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の増加1,467百万円などの増加要因が、短期借入金の減少1,123百万円などの減少要因を上回ったことによるものであります。

純資産合計は、前会計年度末に比べ904百万円増加の7,469百万円となり、自己資本比率は32.1%となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動による資金の増加が、投資活動及び財務活動による資金の減少を上回り、資金残高は前会計年度末に比べて79百万円増加して3,661百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は1,484百万円(前年同期は1,531百万円の増加)となりました。これは税金等調整前四半期純利益527百万円、仕入債務の増加額1,464百万円などの資金増加要因が、売上債権の増加額543百万円などの資金減少要因を上回ったことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は191百万円(前年同期は86百万円の使用)となりました。これは有形固定資産の取得による支出で減少した資金226百万円などの資金減少要因が、有形固定資産の売却による収入で増加した資金37百万円などの資金増加要因を上回ったことによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は1,213百万円(前年同期は433百万円の使用)となりました。これは主に短期借入金の純減額623百万円、長期借入金の返済による支出500百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における業績の進捗等を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成24年5月14日に発表いたしました通期業績予想を修正しております。

なお、詳細につきましては、本日（平成25年2月5日）公表いたしました「繰延税金資産の計上及び平成25年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,582	4,661
受取手形及び売掛金	12,933	13,477
商品及び製品	693	639
その他	586	1,035
貸倒引当金	△7	△12
流動資産合計	18,788	19,801
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,358	1,358
その他(純額)	1,248	1,361
有形固定資産合計	2,607	2,720
無形固定資産	31	25
投資その他の資産	661	753
固定資産合計	3,300	3,499
資産合計	22,089	23,301
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,821	12,288
短期借入金	1,123	—
未払法人税等	45	45
預り金	1,434	1,467
固定資産撤去損失引当金	17	—
その他	1,290	1,160
流動負債合計	14,731	14,962
固定負債		
退職給付引当金	482	491
引当金	49	55
その他	260	322
固定負債合計	792	869
負債合計	15,524	15,831
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,527	5,527
資本剰余金	2,957	48
利益剰余金	△2,003	1,754
自己株式	△5	△5
株主資本合計	6,476	7,325
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	88	143
その他の包括利益累計額合計	88	143
純資産合計	6,564	7,469
負債純資産合計	22,089	23,301

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	58,409	64,829
売上原価	55,522	61,902
売上総利益	2,886	2,927
販売費及び一般管理費	2,448	2,524
営業利益	437	403
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	8	9
固定資産賃貸料	74	70
業務受託料	61	41
軽油引取税交付金	39	44
その他	20	35
営業外収益合計	205	202
営業外費用		
支払利息	36	23
固定資産賃貸費用	25	26
業務受託費用	58	47
その他	11	12
営業外費用合計	133	109
経常利益	510	497
特別利益		
固定資産売却益	42	32
受取補償金	49	—
受取保険金	151	—
補助金収入	—	11
特別利益合計	242	43
特別損失		
固定資産圧縮損	—	11
訴訟関連損失	28	—
その他	3	2
特別損失合計	32	13
税金等調整前四半期純利益	721	527
法人税、住民税及び事業税	28	52
法人税等調整額	△2	△375
法人税等合計	26	△322
少数株主損益調整前四半期純利益	694	849
四半期純利益	694	849

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	694	849
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△16	55
その他の包括利益合計	△16	55
四半期包括利益	678	904
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	678	904
少数株主に係る四半期包括利益	—	—



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	721	527
減価償却費	216	214
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	2
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△40	9
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	0	2
修繕引当金の増減額 (△は減少)	2	3
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	—	△0
固定資産撤去損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△17
固定資産売却損益 (△は益)	△41	△32
固定資産圧縮損	—	11
受取保険金	△151	—
補助金収入	—	△11
訴訟関連損失	28	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,784	△543
たな卸資産の増減額 (△は増加)	118	53
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,454	1,464
未払金の増減額 (△は減少)	157	△40
その他	△181	△98
小計	1,499	1,545
利息及び配当金の受取額	9	11
利息の支払額	△27	△17
保険金の受取額	151	—
訴訟関連損失の支払額	△28	—
災害損失の支払額	△33	△17
法人税等の支払額	△39	△37
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,531	1,484
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△133	△226
有形固定資産の売却による収入	56	37
その他	△9	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86	△191
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△336	△623
長期借入金の返済による支出	—	△500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△21	△20
割賦債務の返済による支出	△75	△69
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△433	△1,213
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,011	79
現金及び現金同等物の期首残高	3,545	3,582
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,557	3,661

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成24年6月28日開催の第82回定時株主総会決議に基づき、資本準備金2,908百万円を減少させ、その他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金2,908百万円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充当いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が48百万円となっております。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	56,804	906	698	58,409	—	58,409
セグメント間の内部売上高又は振替高	238	1	0	240	△240	—
計	57,043	907	699	58,650	△240	58,409
セグメント利益	267	82	87	437	0	437

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	63,112	897	819	64,829	—	64,829
セグメント間の内部売上高又は振替高	245	2	0	248	△248	—
計	63,358	899	820	65,078	△248	64,829
セグメント利益	247	35	119	403	△0	403

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。